

旅行ガイド

フランチェスコ マルモ

イタリアは南欧にある半島で、地中海に北から南へと伸びて、長靴のような形をしている。二つの大きな島もある。アルプスからシシリアにかけて南北に長く伸びているため、北と南では気候はずいぶん違う。国土の多くは丘陵地帯で、面積は約30万平方キロだ。人口は約6千万人で、1平方キロ当たりの人口密度は約200人だ。首都はローマ。

今勧めたいのは、私の実家で、イタリアの東にあるアブルッツォ州のヴァストという町だ。アブルッツォ州は面白い所だと思う。雪いっぱいのアッペンニーニや、豊富な丘や、美しい海や、アブルッツォ州では様々な風景が見られる。ヴァスト市は、アブルッツォ州の南の方、モリーゼ州に近い、海水浴が盛んな所だ。ヴァスト市は二つの部分に分かれている。海に近くて、海水浴場がたくさんある部分があったり、城下町を中心に、海からちょっと離れて、丘の方にある都心があったりする。

歴史について話すと、ヴァスト市はローマ帝国から大きな影響を受けた。今のような姿になったのは中世で、貴族のおかげだった。スペインから来た高貴な出身の出である家族はアブルッツォ州のあちらこちらで住む所を築いた。ヴァスト市でもカルドレスコ城を築いた。

城を中心に、中世の都心は海の方へ崖まで広がっている。その崖の上へ行くと、ヴァスト湾のきれいな海と活気がある海水浴場が眺められる。素晴らしい風景だ。崖に沿って走っているロジヤ・アムブリングという道が有名でいつもにぎわっている。この通りと城の間には、小さい道に独特の店がたくさん並んでいる。ピザ店やアイスクリーム店があって、おいしい食べ物を味わいながら、中世の建物と海の眺めの間にいるのは、全てを忘れて、リラックスできるような気がする。

近郊へ行ったら、ただのつまらない町になってしまうが、海の方へ行ったら、景色はまったく違う。中世的な遺跡はなくて、ホテルが数多く建てられている。海辺にビーチパラソルがいっぱいにさしてあるだけの、よくある海に近い町にすぎないかもしれない。でもヴァスト市に住んでいる人々にとっては、大切な町だと思う。冬にはちょっと寂しくなるけど、夏になると、観光客でにぎわって、日も夜も人々は海岸を散歩する。

おもしろいのは栈橋だ。栈橋といっても、荷を積んだり降ろしたりするわけではない。ただ人々はこの栈橋の上を行ったり来たりして散歩する。栈橋から眺められる風景は息を飲むようだ。